

編集後記

『尾道文学談話会会報』創刊号をお届けします。

第一回尾道文学談話会は、昨年、平成二十一年の七月二十三日に開催されました。世にいう「ふみの日」に始まったわけですが、当初の四月開始予定が七月に延び、さらにまた七月は会場である尾道白樺美術館の展示の都合で第一木曜のつもりが第四木曜にまで延びた結果、はからずも「ふみの日」となった次第。「ふみ」は「文」であり、文学にも学問にも通じるでしょう。これこそ怪我の功名、あるいは転んでもただでは起きぬといふべきか、たいへんよい門出となりました。

この談話会は、尾道大学芸術文化学部日本文学科の教員が文学作品などを紹介、解説し、それをもとに市民の方々と親しく語り合おうという小さな集いです。小さな気軽な集まりであるためか、談論風発、出席者からたいへん有意義な見解が披露されることも多くあります。主題を遠く離れてしまつてもとに戻しにくいこともないではありませんが、それもまたこの談話会のよいところかもしれません。こんな調子でこの集いを末永く続けていければと願っています。

本創刊号には、四人の日本文学科教員の論考や報告を掲載したほか、談話会に出席されている一部の皆さんも「白樺の木の下で」の項に談話会出席の所感を書いてくださいました。また、今年度でご退職になる本学副学長で日本近代文学研究の泰斗、楨林滉二先生が創刊の辞をお寄せくださり、じっくりと着実に教育研究を重ねよとの

激励をいただけただけなのは、この上ない幸いでありました。本会報は年刊誌として「文学の町」尾道の小さな文学的営為をこれから広く全国に発信していきます。今後とも皆様のご支援とご協力をたまわりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、本創刊号の刊行は、平成二十二年度尾道大学学長裁量教育研究費によるものです。記して感謝の意を表します。(T)

尾道文学談話会会報 創刊号

二〇一〇年二月一〇日 印刷

二〇一〇年二月二〇日 発行

発行者 尾道大学芸術文化学部日本文学科

印刷所 三原プリント株式会社

三原市和田一丁目五―一三

電話(〇八四八)六四一―一六四三

発行所 尾道大学芸術文化学部日本文学科

尾道市久山田町一六〇〇

電話(〇八四八)二二一八三二一

表紙デザイン

尾道大学美術学科二年 上月 もえ(こうづき・もえ)

知